

がんと共に生きること

今、日本では国民の2人に1人が一生のうち一度は「がん」になると言われています。その一方で、がんは「不治の病」という過去のイメージから、「がんと共に生き、がんと共に働く」という時代に変わってきています。入院せずに治療を行い、働きながら自分らしく生活することも可能になってきています。

自分らしい生活を営んでいくためには、正しい情報を得て、自分に合った治療法を選択していくことが大切です。がんと告知されたときには頭が真っ白になり、「説明された内容が思い出せない」ということもありがちです。そのようなときには、治療方針の決定についても医療機関任せで進んでしまうことがあるかもしれません。

しかしながら、治療を続けていくのは患者さんご自身です。自分の病気は今どのような状態で、どんな治療法があるか、それによって起こる弊害はあるのか、自分の望む生活はできるのかなどを自ら、又はご家族と一緒に考え、医師や看護師などと話し合いながら決めていくのが望ましい姿です。

緊張と不安の中では、質問すること自体ためらってしまうかもしれません。しかし、よく分からずに決めてしまったことで、後々の治療に影響が出てしまうこともあります。少しでも疑問に思ったことは、遠慮せず声に出してみるようにしてください。

また、患者さんの中には、入院中でも「自宅で過ごしたい」と思う方もたくさんいらっしゃいます。住み慣れた安心できる家での生活が送れるよう私たちがサポートいたしますので、「こうしたい」といった気持ちにフタをせず、スタッフに伝えてください。

相談は、外来で化学療法を行っている時間の中でもお受けすることができます。生活をしていくうえで困っている症状や辛いことなど、気になることがあれば気軽にお声がけください。

また、がんは何といっても早期発見が大切です。定期的ながん検診を受け、少しでも気になる症状があった時には、迷わず医療機関を受診することをおすすめします。